

第 22 回南多摩保健医療圏地域保健医療福祉フォーラム
新型コロナの経験を伝える～保健・医療・福祉の現場から～

講 評

南多摩地域保健医療協議会
会長 城所 敏英

保健の現場から

1. は、自宅療養者への支援に関して、保健所と連携して地元自治体が食料だけでなく相談支援なども積極的に取り組みをはじめた好事例である。
2. は、自宅療養者への医療提供体制を、保健所が地元医師会に協力を要請し整備した事例。SNS など ICT 資源の活用など新しい仕組みや、一時療養ステーションの開設とその評価も今後の対策に有用である。
3. は、2020 年初頭日本で最初のクルーズ船クラスター発生に即時に対応して、学内での COVID-19 対策に着手、クラスター発生を防いできた。医系大学という強みがあるが、日常的な感染対策の基本が行われていたことがポイントと思われる。
4. は、管内大学との定期的な関係を背景に、学生寮での COVID-19 クラスター発生後、保健所スタッフによる訪問調査・感染症対策の助言・協力の報告。日常的な関係を背景に、健康危機への対応をスムーズに行えた事例である。
5. は、COVID-19 流行下で風水害などが発生した場合、避難所での感染症対策が同時に求められる。今後、避難所の環境評価として、こうした換気調査も基本調査として重要であることが示された。

医療の現場から

1. は、一般医療機関での COVID-19 患者への CT 検査を、きめ細かい感染対応により、感染者の CT 検査を安全に実施できた事例である。
2. は、医療従事者から接種が開始された新型コロナウイルスワクチンについて、自院での副反応調査の報告。3 回目開始されており、自院での調査によって、より効果的な対応が可能であろう。
3. は、一般医療機関での、COVID-19 患者受け入れの長期化対応で、担当看護師をローテーション配置した。異動者が安心して業務に従事できる教育プログラムを作成・活用した報告。こうした取り組みを通じて、チームワークがより強化され明るく維持されてきたことは素晴らしい。
4. は、COVID-19 の後遺症だけでなく、高齢者では入院生活による廃用症候群が問題となる。退院後の訪問リハビリテーションにより、ADL が感染前のレベルに改善したことで、その重要性を再確認した。
5. 6. 7. は、COVID-19 流行下での地域医療に取り組んだ医師会の報告である。5. は、

オンライン診療の経験の報告と考察から、今後の活用が期待される。6.7.は、「地域における自宅療養者に対する医療支援」の報告で、体制整備には、行政、医師会、薬剤師会、訪問看護ステーションなどの連携が不可欠であった。

福祉の現場から

1.は、緊急事態宣言発令後も事業継続が求められた介護老人保健施設で、感染対策を取りつつ、稼働率も90%近くを維持したことは他の施設でも大いに参考になる。カラオケを安全に再開できたノウハウを知りたい。

2.3.は、大規模クラスター発生を経験した特別養護老人ホームからの報告で、2.は、介護職の立場から陽性者フロアでの経験を、利用者と職員について考察している。3.は、施設内療養を余儀なくされた場合の困難さの指摘と、業務縮小などによる非陽性者への影響も示された。当たり前と思っていた入浴や食事の提供の重要性を再確認している。

4.は、長期化するCOVID-19の流行による既存事業への影響と対策について、認知症関連事業に関し報告された。

全体の講評

いまだ終息していない新型コロナウイルス感染症への、初期から第5波までの現場でのリアルな対応が報告されている。こうした経験が現在進行中の第6波への対応に生かされることを期待する。同時に、流行終息後の振返りの時には貴重な記録として活用されることと思う。